

文化財を訪ねて 9



青い目の人形 ～平和の使者～

仁尾町の吉祥院には、1体の西洋人形が残されています。小さな愛らしい人形ですが、その生い立ちには、複雑な国際関係が背景にありました。その澄んだ青い目にはどんな光景が映されていたのでしょうか。

明治時代以降、渡米する日本人が多く、経済不況の中で多くの失業者を抱えるアメリカ政府が移民規制を決定。日米関係の悪化を憂えた世界児童親善会のグーリック博士は、両国民の交流を促すべく「人形親善使節」の派遣を提唱し、全米より募金を集め、昭和2年に12,739体の人形が、本物そっくりのパスポートを持って日本に上陸しました。

香川県には108体配られ、その内の1体が仁尾町の平石幼稚園に贈られました。寄贈者の名にちなんで「アマナ・ジュリー」と名づけられ、答礼として日本からもアメリカに人形が贈られています。

しかし、太平洋戦争が開戦すると、敵国からの贈り物として人形の多くは破棄されてしまいました。アマナ・ジュリーは幸運にも難を逃れ、県内で唯一現存するものとして、市有形文化財に指定されています。

時代の波にほんろうされた人形たち。その中で、アマナ・ジュリーは激動の時代を生き延びた歴史の証人として、今も静かに微笑んでいます。

生涯学習課

今月の市民力

豊中町ボランティアタンポポの会は、地域の高齢者や障がいのある人に何かお手伝いできないかと地元有志26人が集まって平成6年に発足しました。現在、会員数は127人。老人ホームのお手伝いから始まって、高齢者が気軽に集まりお茶会などをする街角喫茶(ふれあいいきいきサロン)を立ち上げたり、独り暮らしの高齢者宅を訪問したりするなど、地域に密着した活動をしています。表紙は、比地大地区で行われたうどん作りの様子。地域の高齢者が家でとじこもりにならないように、会員が積極的に声を掛けるなど生きがい活動に取り組んでいます。

